

232. 遊び心

DX 戦略部建設 DX 課長 山本哲雄

学生時代に教習所で「ハンドルに遊びがあるから車はまっすぐ進むんだよ」と教えてもらった記憶があります（技術的に本当かどうか知りません）。その話を聞いて、若い頃は、人生をまっすぐ歩むためには、遊びが必要なんだと勝手に解釈して、「遊び心」を大切にしていました。

それから 20 数年たち、この 4 月に DX 戦略部に配属され、ビッグサイトや幕張メッセで開催されている DX 関連の展示会に足を運ぶ機会が増えました。DX というキーワードが流行なのか、いずれの展示会も盛況です。これまで知らなかった業界、技術の話が聞けて、かつ直接触れることができるので、面白いです（しかも一度にたくさん）。そうこうしていると、しばらく忘れていた「遊び心」が沸々と！

以下に、DX 戦略部内の話題や展示会で仕入れた情報をもとに、この 1 年間に、私が初めて手に触れた主な技術をいくつか紹介します（私見も交じっています）。

- ① 点群スキャナー…歩きながら高精度な点群データとパノラマ写真を計測できるウェアラブル型レーザースキャナーです。実際の施設を自分で担いで、点群データを取得してみました。少し重い（約 9 kg）ですが、簡単に現況施設の点群データが取得できます。他にもモバイル型のスキャナーも試しています。もっと手軽に点群データが取得できるようですが、まだ思いどおりに使いこなせていません。
- ② 360 度カメラ…これまで使用したことがなかったのですが、簡単に上下左右前後の画像が撮影できます。撮り漏れが少ないことと撮影した位置や方向がわかりやすいです。また、取得した画像をクラウドサービスにアップロードすれば、誰でも何時でも閲覧出来て、現況施設の概況が把握できます。
- ③ アイトラッキング…専用のデバイスをかけた人の眼球の動きを捉え、どこを見ているか可視化する技術です。視点が表示されたデータが記録されます。工事現場の安全パトロールで試行をしました。熟練技術者の見ている先などを分析することで研修などに利用できそうです。
- ④ VR (Virtual Reality) …専用のゴーグルを装着すると、その中に仮想現実空間が映し出され、まるで自分がその中に存在しているような感覚を体感できます。実際に現場にいるような没入感を得ることができます。この環境で設計協議などを行えば、コミュニケーションの活発化が期待されます。他にも MR (Mixed Reality) も試しましたが、

ここでは省略します。

- ⑤ 地震予測サービス…その名のとおり、地震を予測して知らせてくれるサービスです。国土地理院が設置している電子基準点の 3 次元的な動きを捉えて、地震を予測しているとのこと。お試し期間中には、的中しませんでした。精度があがれば災害対応の準備等に役立つかなと思います。

・・・(いくつか並べましたが、人に伝えるのって難しいです)

いろいろと試しましたが、この技術は、どのシーンでどのように活用すれば業務に役立つのか、JS だけでなく業界全体の役に立つのかを想像力を駆使して試行を進めています。

また、これからもデジタル技術のおもちゃ箱をひっくり返して遊ぶ心を大切にしつつ、もちろん成果を意識しながら、新しい技術やその活用方法を探っていきます。

最後に、DX の本質は変革です。私は少し前まで反スマホでした。それがスマホを手にしたからは、新幹線の切符を買うため券売機に並ばない、出張や懇親会に地図や時刻表を印刷しないなどなど小さな変革が起こっています。これまでにないやり方に変えることってとても面倒くさいと思っていましたが、やってみれば、ただの食わず嫌いでした。

こんなことって、日々の業務や日常生活の中にたくさんあるのではないのでしょうか。